

DERWENT- 1997-158988

ACC-NO:

DERWENT- 199715

WEEK:

COPYRIGHT 2007 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Power line cover for utility pole - has roof sheathing material configured with winding horizontal U-shaped fold to form cover body which is installed on utility pole through cross-arm receiving rails

PATENT-ASSIGNEE: MEISHIN DENKI KK [MEISN]

PRIORITY-DATA: 1995JP-0205188 (July 18, 1995)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE PAGES MAIN-IPC
<u>JP 09028267 A</u>	February 4, 1997 N/A	005 A01M 029/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR APPL-NO	APPL-DATE
JP 09028267A N/A	1995JP-0205188	July 18, 1995

INT-CL (IPC): A01M029/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 09028267A

BASIC-ABSTRACT:

The cover has a ridge board material (2) from which several roof sheathing materials (3) are formed symmetrically on its left and right sides. The roof sheathing materials are formed with a coupled part which is configured with a winding horizontal U-shape fold, making up a cover body. A break (6) in the form of a planar semicircle is provided to allow the cover body to be installed about a utility pole (p).

The sides of the cover body are provided with a cross-arm receiving rail (7). The upper surface of the cross-arm receiving rails are installed with several barriers (8). A strap (9) on the lower end of the cover body is linked to an opening on the cross-arm receiving rails for fixation to a cross-arm (b).

ADVANTAGE - Prevents birds and snakes from nesting or tree part from falling on utility pole by covering surrounding of utility pole. Allows easy assembly and management due to flexibility provided by coupled parts.

CHOSEN- Dwg.3/5

DRAWING:

TITLE- POWER LINE COVER UTILISE POLE ROOF SHEATH MATERIAL

TERMS: CONFIGURATION WIND HORIZONTAL U=SHAPED FOLD FORM COVER
BODY INSTALLATION UTILISE POLE THROUGH RECEIVE RAIL

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1997-131320

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-28267

(43)公開日 平成9年(1997)2月4日

(51)Int.Cl.*

A 01 M 29/00

識別記号

府内整理番号

P I

A 01 M 29/00

技術表示箇所

E

審査請求 有 請求項の数1 FD (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平7-205188

(22)出願日 平成7年(1995)7月18日

(71)出願人 000243939

名伸電機株式会社

愛知県名古屋市昭和区鶴舞2丁目5番6号

(72)発明者 小川 一郎

岐阜県岐阜市天神町1番地

(72)発明者 中村 充秀

福岡県筑後市大字前津838番地の29

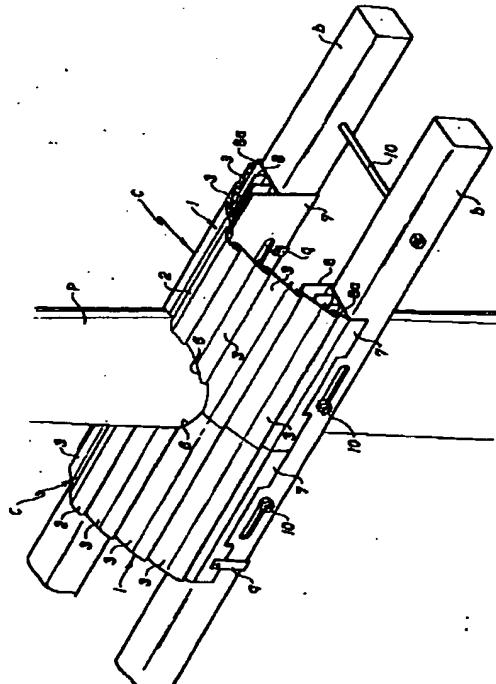
(74)代理人 弁理士 伊藤 誠

(54)【発明の名称】 電柱上部に設置する鳥害等防止用カバー

(57)【要約】

【課題】 電柱上部に装着された腕金に取り付けて電柱周りをすべて覆い、鳥害の発生を防止する。

【解決手段】 一枚の山形をなす棟板材2と、平板よりなる複数の屋根板材3と腕金受けレール7とを連結部4, 4'を介して連結して合掌造り屋根形に形成した鳥害等防止用カバーC, Cを電柱Pを挟み付けるように配置すると共に、腕金受けレール7を腕金bに冠着して固定し電柱P周りをすべて覆い、電柱P周りに鳥や蛇が接近したり、営巣したりするのを防止させる。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 所要の長さを有して山形をなす一枚の棟板材と、平板よりなる複数板の屋根板材のそれぞれ巾方向の両端に断面横U形に屈曲した連結部を設けてこれらの連結部を互いに組み合わせることにより、棟板材の左右両側に対称状に屋根板材を連結して合掌造り屋根形のカバー本体を形成し、該カバー本体の長手方向の一方端に電柱を嵌挿させる平面半円形をなす切り込みを設け、さらに該カバー本体の左右両側端に断面門形状をなす腕金受けレールを連結して該腕金受けレールの上面にバリヤーを多數立設すると共に、該腕金受けレールの下面開口に固定用バンドを掛け渡して構成される電柱上部に設置する鳥害防止用カバー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電柱上部で電柱周りの腕金等に鳥が接近し、営巣したり、蛇が登はんしたり、さらには樹木片等が引掛かったりして配電線事故を惹起するのを防止するために、電柱上部に設置する鳥害等防止用カバーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、このように電柱上部に設置する鳥害防止用カバーには、鳥が飛来するのを防止する棒状のバリヤーを放射状に多數突出させたものを腕金の適宜個所に取り付けるようにしたもののが知られているが、電柱周り全体を屋根状に覆うものはなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような従来の鳥害防止用カバーは、多數のバリヤーが放射状に突出していて嵩張るために取り扱いにくく、さらに腕金に対し取り付け固定するのに手数が掛かるといった問題がある。さらに、電柱周りの全体をカバーできず、空白個所が存在することで十分に鳥害等を防止することができないといった問題がある。そこで本発明は、このような従来技術にみられる問題点を解消することができる、電柱上部に設置する鳥害等防止用カバーを提供することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】かかる目的を達成するために本発明に係わる電柱上部に設置する鳥害等防止用カバーは、合掌造り屋根形に形成した二組の鳥害等防止用カバーを電柱を挟み付けるように配置すると共に、各鳥害等防止用カバーの両側に設けた腕金受けレールを電柱上部に平行に固設された腕金に冠着させて固定して、電柱周りをすべて覆い、電柱周りに鳥や蛇が接近したり、営巣したり、営巣材料を集めたりすることをすべて防止させる。

【0005】

【発明の実施の形態】以下に本発明に係わる電柱上部に設置する鳥害等防止用カバーの実施の形態を図面と共に

10

説明する。図1は本発明に係わる鳥害防止用カバーの斜視図で、図2はその側面図である。図において1は所要の長さを有して山形をなす一枚の棟板材2と平板よりなる複数枚の屋根板材3とを組み付けることにより合掌造り屋根形に形成されるカバー本体である。前記棟板材2及び各屋根板材3はそれぞれ巾方向の両端に断面横U形に屈曲した連結部4を設けているが、棟板材2では双方の連結部4、4'を何れも下向きに形成し、各屋根板材3では一方の連結部4を下向きに形成すると共に、他方の連結部4'を上向きに形成している。さらに棟板材2及び各屋根板材3とも表面を平滑面とし、裏面には補強と手掛けのためのリブ5を長手方向に突設している。

【0006】そして、一枚の棟板材2の左右に対称に前記屋根板材3の両端に設けた連結部4、4'を組み合わせて複数枚ずつ屋根板材3を連結することにより図2に示す合掌造り屋根形のカバー本体1が構成される。このように構成したカバー本体1は長手方向の一方端中央部に電柱Pを半周嵌挿させる、平面半円形をなす切り込み6を設けている。7、7'は前記カバー本体1の左右両端

20 に連結させる腕金受けレールであり、該腕金受けレール7は断面門形状をなしており、その上面板7'a上に板状のバリヤー8を等間隔に複数立設している。これらの各バリヤー8は腕金受けレール7、7'をカバー本体1に連結した状態で、屋根板材3との間の空間を塞ぐように高さを異ならせて形成される。そして最も外側に位置するバリヤー8'aは互いに内側に傾斜させて、上端に上向きの連結部4'を設け、この連結部4'をカバー本体1の両側下端で屋根板材3下端側の連結部4に連結させ、カバー本体1の左右両側端に連結させる。なお、カバー本体1内側の中央部に空間Sを存在させ、この空間Sに電柱P上部に設置されている機器類を収容させる。

【0007】このように構成された鳥害防止用カバーCは二組を使い、図3に示すようにそれぞれ切り込み6、6'を対向させて電柱Pを挟み付け、各腕金受けレール7、7'を電柱P上部に平行に固設された二本の腕金b、b'に冠着させ、各腕金受けレール7、7'の適宜個所で下面開口に固定用バンド9を掛け渡して、腕金b、b'に固定させる。なお、10は平行する腕金b、b'を連結して電柱Pに固定させる連結用ボルトである。このようにして電柱P上部で腕金b、b'を介して装着される鳥害等防止用カバーC、C'は、図3及び図4に示すように電柱P周りを塞いで、鳥や蛇が電柱Pに接近するのを防ぎ、さらに営巣用の樹木片等を乗せても、カバー本体1の上面が引掛りのない滑らかな傾斜を持っているためにすべて落下させて営巣させることはない。さらに本発明の鳥害等防止用カバーCは、カバー本体1を構成する棟板材2、各屋根板材3及び各腕金受けレール7、7'が何れも連結部4、4'で屈曲可能に連結されているためにコンパクトな形に折り畳むことができて、巣を小さくして取り扱か

30 40 50 うことができる。

3

4

【0008】

【発明の効果】以上に述べたように本発明に係わる電柱上部に設置する鳥害等防止用カバーは、二組を使って電柱を挟み付けるように配置し、腕金受けレールを腕金に冠着させ、電柱周りをすべて覆った形で簡単に取り付け固定することができて、鳥や蛇が電柱周りに接近するのを防止し、さらに、樹木片等の巣材は滑り落としてしまい巣をさせることはない。さらに、構成要素である棟板材、各屋根板材及び腕金受けレールがすべて屈曲可能に連結されているためにコンパクトな形に畳んで効果よく取り扱うことができ、また、これらの各構成要素を簡単に組み付けることができるから、分解したまま格納、運搬等の管理を効率よくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係わる鳥害防止用カバーの斜視図。

【図2】図1の側面図。

【図3】使用状態の斜視図。

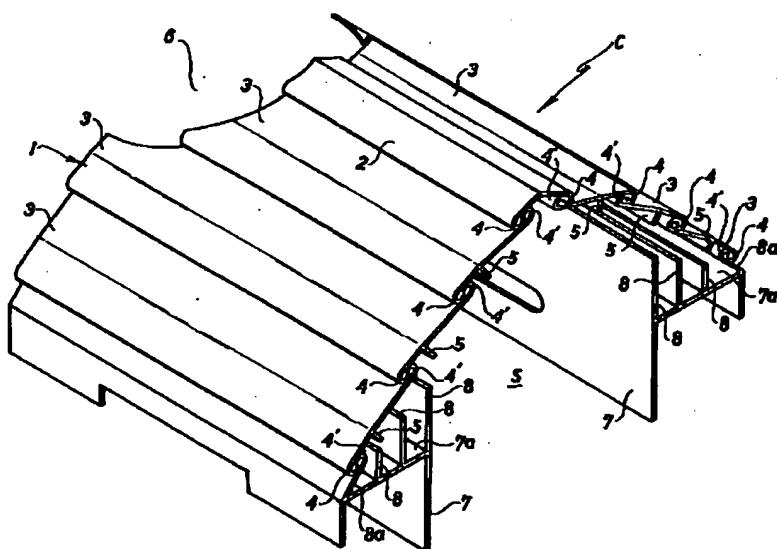
【図4】図3の正面図。

【図5】図3の側面断面図。

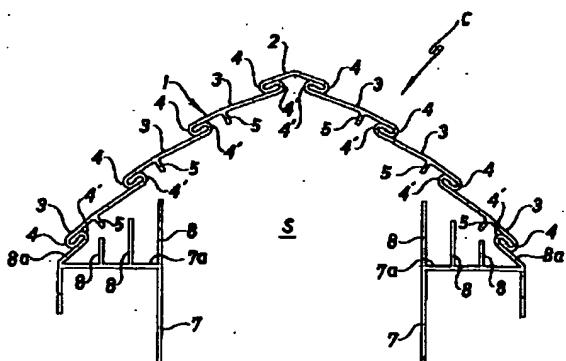
【符号の説明】

1	カバー本体
2	棟板材
3	屋根板材
4, 4'	連結部
10	切り込み
6	腕金受けレール
7, 7'	バリヤー
8	固定用バンド
b, b'	腕金
P	電柱

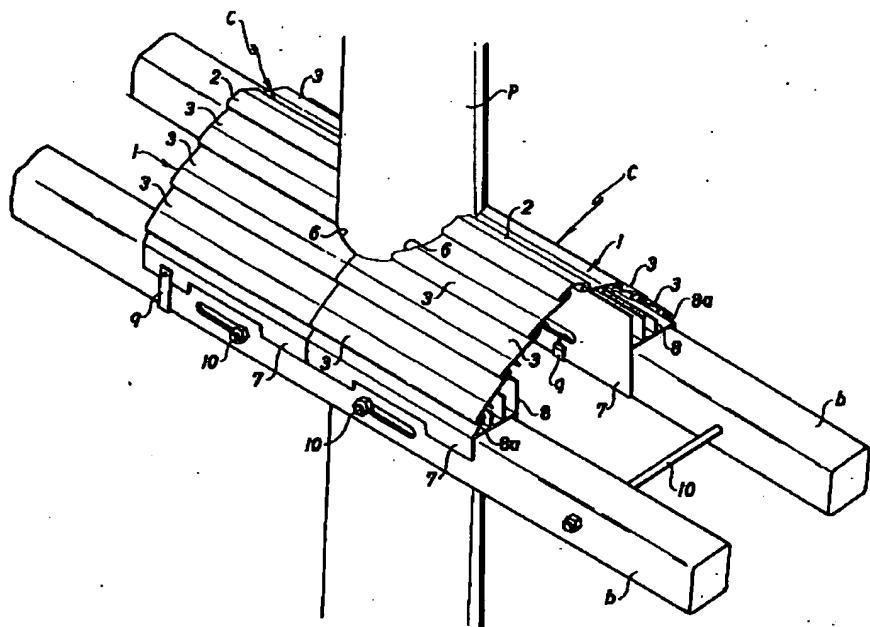
【図1】



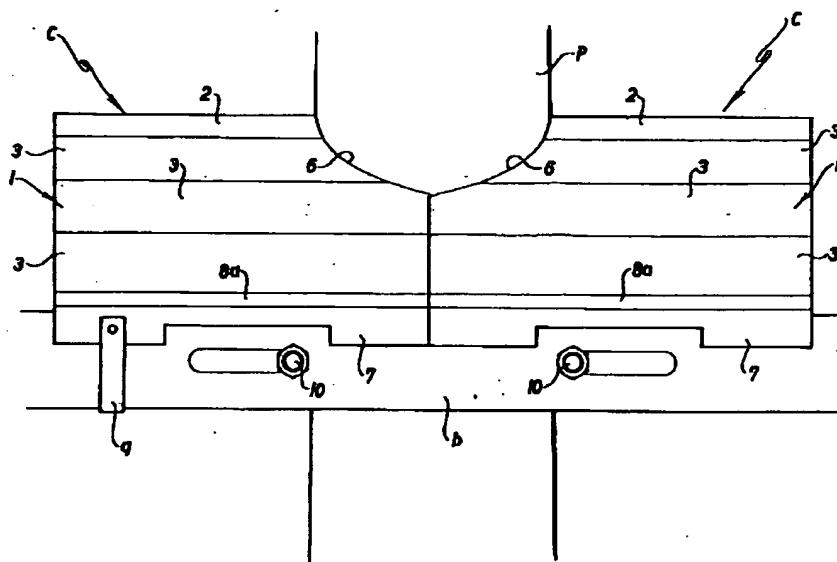
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

